



## 先祖から受け継ぐ心と街

### 心あったかニュース

徳川家の19代当主の徳川家広さんのインタビュアーが興味深かったので、ご紹介します。ヤフリーニュース「もう戦争はこりごり」家康の生きた戦国から子孫が受け継いだ宝とはより

江戸時代は、将軍家、維新後は侯爵家、現在は、宗家なのだそうです。歴史的・美術的価値のある史料や文化財を後世へ継承し、学術研究や社会教育の発展に寄与するために、先代が設立した徳川記念財団です。版籍奉還の時に、江戸城から持ってきた家宝の半分ほどを寄贈したものは、久能山東照宮博物館にあるそうです。残り半分の家宝は、政変、放火、空襲などでほとんど減ってしまいましたが、2万数千点の文化財を守っています。2023年に父・恒孝さんから“家督”を継いだことに伴う「継宗（けいそう）の儀」が徳川家の霊廟がある増上寺で執り行われました。現当主は、ご先祖様への報告も必要なことです。これは、うちが特別な家だからというのではなく、誰もが

ご先祖様が累々と重なってきて今日に至っているわけですし、日本人の宗教感性からしても普通のことだと思えます。また、初代家康公から続く徳川宗家の一貫した理念は？と質問に、驚くほど一貫して「もう戦争はもうこりごりだ」という家康公の思いはずつと受け継いできています。最後の将軍である慶喜公も、内戦を避けるために職を辞しました。王政復古のクーデターで抵抗しなかったのは、これが元で大戦争になり、一步間違えれば外国の植民地となってしまうといった皆の心配を受けてのことだったのではないかと思っています。江戸幕府の開府に始まり約260年もの間戦争がなかった時代と、戦後の平和憲法の下での約80年間を経て、家康公が薨去（こうきよ）する間に「こういう日本であってほしい」と願っていた社会にだいぶ近づいてきていると思うわけです。そして徳川将軍家・宗家代々の当主の考え方はいまの日本社会のどのようなどころに影響を及ぼしていると感じていますか？の質問には、外国人観光客が東京に来てまず驚くのは、渋谷のスクランブル交差点で人がぶつからないでちゃんと見事にすり抜けていくことや、新宿ゴールデン街の狭い区画の中でも殴り合いにもならずみんな

仲良くお酒を飲んでいられるようなことなのです。江戸時代も、最初のうちは日本中から若い男性が主に土木工事で集まってきた、相当荒っぽかったのですよね。それを限られた狭い空間で、仲良く暮らしましょう」という風に長い時間をかけて、新しい文化を作っていった。こうした江戸時代に生まれた文化や慣習の名残が、今まで残っているわけです。と語っています。

#### 編集後記

初代家康から、受け継がれているものは、平和を目指すことで、しっかりと現代に、そして、町の様子から、なるほどと思えました。江戸時代が、少し身近に感じられてきました。狭い空間でも仲良く暮らしましょう。がちゃんと受け継がれていることを、自覚して、大切にしていきたいと思いました。